提出締め切り： 帰国後１ヶ月以内　　提出先：shien@asafas.kyoto-u.ac.jp

京都大学大学院　アジア・アフリカ地域研究研究科
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度　JASSO 派遣報告書

報告者氏名　原　将也　　平成 23 年度（入学・編入）

1.研究課題：

ザンビア北西部の自然環境とルンダの生業経済

2.派遣期間：

平成 23 年　9 月　20 日　～　平成 23 年　12 月　9 日　（　81 日間）

3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

ザンビア北西部州ムフンブウェ県に位置するシュークウェ地区には、カオンデやルンダを始めとして合計６民族が居住している。カオンデ以外の 5 民族はキャッサバを主食とし、主に農耕に従事している。地区内では、とくにルンダの人口が多くなっている。ルンダは、ミオンボ林と呼ばれるマメ科ジャケツイバラ亜科が優占する林の中に、ルンダ語でムンテマ(muntema)というキャッサバ畑や、ムチヘンビ(muchihenbi)というトウモロコシ畑を開墾している。開墾する際には範囲内の樹木をすべて伐採し、焼畑を行うことで土壌に栄養塩類を添加していると考えられる。ルンダの主食はキャッサバであるが、政府から販売される化学肥料を用いてトウモロコシを栽培し、政府に売ることで現金収入を得ている。農耕以外にも、漁撈や狩猟に従事する人々も地区内に存在している。ムフンブウェ県は首都ルサカからも遠く、企業による大規模な開発は行われていない。そのため開墾可能な土地が多く、彼らは毎年耕作地を拡大し、キャッサバ栽培が終了した耕作地を放棄する。土地生産力に頼った農耕を行っており、広大なミオンボ林において開墾と放棄を繰り返すことで、うまく作物を栽培している。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

今回の渡航では、現在のルンダの生業活動について調査することができた。今後はルンダを始めとした 6 民族の歴史的背景についても触れていきたいと考えている。またザンビアでは 2011 年 9 月 20 日に大統領選挙が実施された結果、複数政党制が導入されてから初めて与党が交代した。政権交代が起こった後、政府の方針はこれまでとは異なっている。農業政策に関しても同様である。たとえば、化学肥料の価格が従来の 2 倍に上昇し、農民レベルにおいても影響が出始めている。これからのザンビア全体の政治・経済問題についても注意深く検討していく必要があると考えている。

今回はルンダの人々と生活することで現地語習得を目指した。簡単な会話や質問ならば発言できる程度に習得できたが、聞き取り調査を実施する際には、より語学力が求められる。今後の渡航に向け、国内においても現地語の学習を継続的に行う必要がある。

5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

フィールドワーク実施のために派遣費用を援助する本プログラムには感謝している。今後も同様のプログラムがあることを望んでいる。今後も実際に調査が実施できるような留学プログラムや、自分の調査地とは直接関係のない国や地域に行き、見聞を広めるような留学プログラムがあれば参加したい。また、大学や研究機関等では学習できないマイナー言語が学習できるような留学プログラムがあれば参加したい。

署名